

事業の全体像

グループ丸で目指すサーキュラーエコノミーの実現

資源循環事業

廃棄物や資源物のリユース・リサイクル・リマニファクチャリングを進めることで、限られた資源の有効活用と廃棄物の削減に取り組むとともに、廃棄物から再生原材料を製造し、新たな価値を世の中に提供しています。

グローバルトレーディング事業

日本を含めた世界各地で発生する金属スクラップ・その他資源物を多国間で流通させるとともに、日本製中古車や中古車部品をはじめとする中古品をグローバル市場に展開しています。

- 株式会社 NEWSCON
- 株式会社 3WM

その他事業

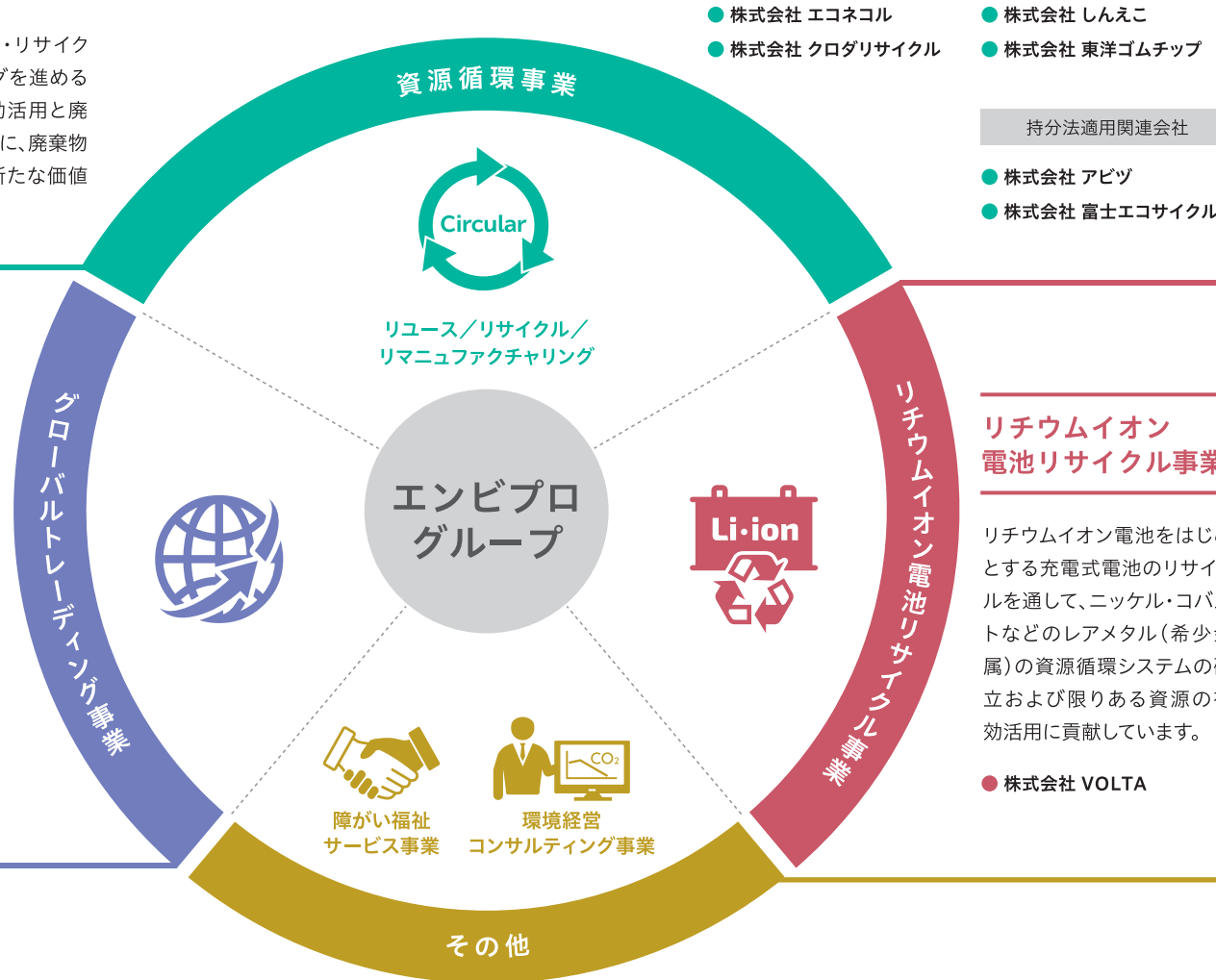
障がいのある方の就業や地域生活などにおける自立支援をサポートする「障がい福祉サービス事業」と、企業の環境戦略・CO₂削減計画の支援などを行う「環境経営コンサルティング事業」を展開しています。

障がい福祉サービス事業

- 株式会社 アストコ

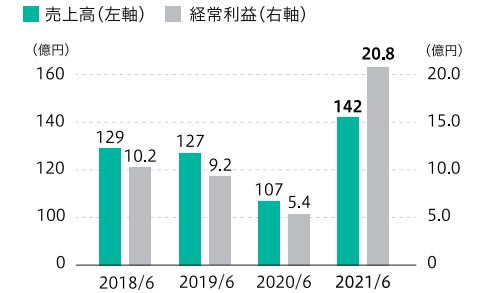
環境経営コンサルティング事業

- 株式会社 ブライトインバージョン

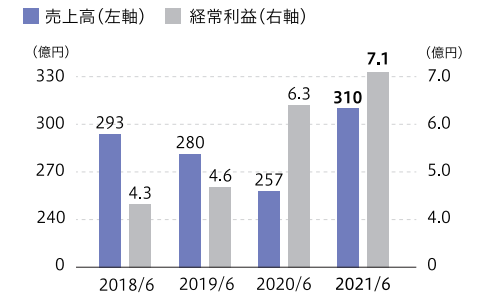


●業績ハイライト

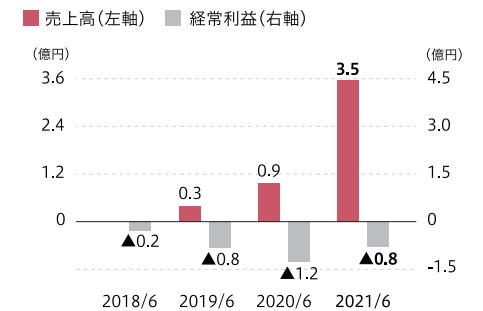
資源循環事業



グローバルトレーディング事業



リチウムイオン電池リサイクル事業



事業セグメント区分の変更

- 海外事業を行う「グローバル資源循環事業」と「中古自動車関連事業」を「グローバルトレーディング事業」として統合し、シナジーを強化しました。
- 「リチウムイオン電池リサイクル事業」はグループの戦略的事業として、今後予定する湿式製錬などの事業内容・規模感・アライアンスを考慮し、「資源循環事業」から独立させました。

ACTION PLAN

電池 to 電池

LIBサーキュラー新時代の幕開け

近い将来、LIBの原材料であるコバルトやニッケルなどの

鉱物資源不足が懸念されている。

そのため世界は、資源の戦略的確保に向け動き出している。

“電池 to 電池”。

それは、リサイクルを前提としたLIBの循環システム。

LIB生産と鉱物資源の再資源化が一体となる

新たなサーキュラーエコノミーモデルの構築を目指し、

エンビプロ グループは今、大きく舵を切った。



次代を担う、電池産業界のなくてはならない存在へ。

世界は今、鉱物資源確保へ向けた大きな変革期を迎えている。日本、そして地球の資源を守る重要な鍵、それがLIB(リチウムイオン電池)のリサイクル。エンビプロ グループにおいても、新たな事業の柱としてさらなる成長が期待されている。これまで、資源循環事業のひとつとして位置づけられていた「リチウムイオン電池リサイクル事業」が、今期から事業セグメントとして独立したことも事業の重要度の高さを示している。その背景となるのはEV車の急速な普及にある。LIBの需要が急拡大しはじめることで、近い将来、原材料のコバルトやニッケルなどの資源不足が懸念されているのだ。レアメタルは産出国に限られるため、国内資源の戦略的確保が必要となる。現在、国内におけるLIBのリサイクルは、ブラックマスと呼ばれるコバルトやニッケルの濃縮滓を回収するところまでで、それを海外に輸出することになる。貴重な資源が海外へ流出し、日本にとって大きな損失になる。それを防ぐためにはブラックマスを国内で製錬し、再製造した資源を直接国内メーカーに供給すること。しかし、それには大きな投資と決断が伴う。プラント建設費に加え、利益が出るまでには長い期間を要すること、また製錬にはこれまで以上の物量を確保しなければならないことなど、現段階での事業化には困難な壁が立ちほだかる。このままでは、国内の電池産業界ひいては自動車産業界など多くの国内企業が競争力を失うことになる。現在、自社では高度な製錬を実現するために日々研究を重ねながら、プラントの設備や立地の計画、また電池メーカーなどとのアライアンスに向けて着々と準備を進めている。2025年、湿式製錬工場の完成、そして本格稼働を目指し、エンビプロ グループの新たな大きな柱となるために。そして電池産業界に、なくてはならない存在となるためにエンビプロ グループは挑戦していく。

ブラックマス

リチウムイオン電池を焼成処理した後
に生成されるコバルトやニッケルなどの
混合物。製錬によってコバルトやニッケ
ルの再生材料を製造することが可能。

